

第1回飯田市社会福祉審議会児童福祉分科会（飯田市版子ども・子育て会議）

第1回飯田市次世代育成支援対策地域協議会 議事録

日時 令和3年7月15日（木）10:00～11:50

会場 飯田市役所 A棟3階 A301・A302 会議室

出席者（委員）：原委員、森山委員、松村委員、上沼委員、篠田委員、近藤（政）委員、宮澤委員  
林委員、小池委員、岡田委員、宮嶋委員、矢澤委員、藤本委員、田口委員、木下委員  
（事務局）：高山健康福祉部長、後藤子育て支援課長、牛山子育て支援課課長補佐兼施設管理係長、  
小澤子育て支援課長補佐兼保育係長、  
蓑和子育て支援課課長補佐兼こども家庭応援センター所長、関島子育て支援係長、  
飯島家庭係長、橋爪保健課保健指導係長、大島産業振興課課長補佐兼労政係長、  
上柳学校教育課児童クラブ担当専門主査、  
堤生涯学習・スポーツ課課長補佐兼地育力向上係長  
（司会）：小澤子育て支援課長補佐兼保育係長

1 開会

2 任命書交付

所属団体の任期満了などにより変更となった委員の方への任命書交付。

任期は前任の残任期間となり、令和4年3月31日まで（後任の任期は残任期間となる。）。

3 児童福祉分科会長（原会長）

自身は飯田市社会福祉協議会に所属しており、飯田市社会福祉協議会では社会福祉全般の様々な施策、活動を行っていますが、子育て支援の活動は少ない方です。福祉という視点から高齢者支援や障がい者支援といったイメージが強く、国や飯田市の予算をみても高齢者や障がい者施策の予算枠をしっかりと確保しているのが現状のように思います。

しかしながら、未来のことを考えてみますとやはり子ども・子育て支援は社会全体にとって非常に大切な政策です。ぜひ委員の皆さまからは、様々な視点でご意見を出していただきたいと思います。

いただいたご意見を飯田市の政策に反映していただくことで、未来を創っていく重要な政策に繋がっていくものと考えております。

リニア中央新幹線等の産業政策が話題となっていますが、産業活動も健康な市民がいなければ意味がなくなってしまいます。人材を育てていくことが如何に重要なことであるかをつくづく実感しているところです。

委員の皆さんの発言一つひとつが市の政策に反映されていくことで、きっとより良い社会になると思いますので、ぜひ実りのある委員会にさせていただきますようご協力願います。

4 健康福祉部長あいさつ（高山健康福祉部長）

先週から昨日にかけて雷雨が繰り返しており、災害等を心配していましたが、本日の気温は30℃を超える予報がされており、夏というよりは亜熱帯地方のような気候になってきているところです。

新たに任命された4名の委員さんと兼務をいただく3名の委員さんを含め、皆さまにはぜひお身体に留意していただき、飯田市の子ども・子育ての羅針盤となる児童福祉分科会委員をしっかりと勤めいただきますようよろしくお願い申し上げます。

さて、飯田市の新型コロナウイルス感染症の状況については、昨日新規感染者が1人確認されたように時折感染者が確認されていますが、その先には広がっていない状況となっています。

一時は上伊那地域の感染警戒レベルが上がるなど心配な状況でありましたが、当圏域については、市民の皆さまの感染予防対策の徹底により、安定が保たれている状況です。なぜ安定が保たれているかという感染者が確認された場合は、先回りして濃厚接触者を特定し、速やかに検査を行い、そして即日検査結果が出せるという体制になっているからで、検査センターと検査を担当する医療機関がしっかりと連携をすることで感染の拡大を防ぐことができているということになります。

同時に日頃より市民の皆さまが感染防止対策にご協力いただいていることも大きな要因であり、厚く感謝申し上げます。

ただし経済状況がひっ迫し、生活が脅かされ続けており、いつまでも縮こまっているわけにもいかない状況です。市としてはワクチンの早期接種の確実な推進を図るとともに市独自の水際対策として無料の簡易検査キット配布の施策を行っているところです。他圏域との往来があった方が検査キットを使い、検査をすることで早期に結果が出て、安心して飯田市で過ごしていただく。また研修会等で講師の方をお呼びしたときや受験や就職活動等で他圏域との往来があった学生にも使っていただき、活動ができるだけ制限されないような政策に転換してきているところです。

一方ワクチンについては、国の調達速度が失速し、供給量が減少している状況です。現時点でご予約いただいている方に関しては問題なく2回目まで接種が可能ですのでご安心いただきたいと思います。できる限りワクチン接種のスピードを維持していけるよう取り組んで参ります。今後は50歳から59歳までの方と今年18歳になる方へ接種券を配布し、ワクチン接種を行って参ります。ワクチン接種予約のキャンセルが発生した場合、貴重なワクチンが無駄にならないように市内の小中学校の先生、保育園や認定こども園の先生、民生児童委員の皆さまに待機していただきワクチン接種をお願いしています。このような急なキャンセル分の有効活用の取組みについて、ご理解とご協力いただいていますことに厚く感謝申し上げます。

本日は、子育て応援プランや児童虐待等について現状のご説明をさせていただき、ご意見をいただきたいと思います。新型コロナウイルス感染症の影響により、児童虐待の状況はひっ迫してきています。現状を把握いただいたうえで、飯田市としてどのような政策を打っていくのか、あるいはどのような配慮が必要なのか、各委員の皆さまからご意見をいただけて進めて参りたいと思います。

## 5 飯田市社会福祉審議会・児童福祉分科会について

- (1) 飯田市社会福祉審議会条例（事務局：小澤説明（当日配布資料））
- (2) 委員自己紹介
- (3) 事務局自己紹介

## 6 報告事項

- (1) 飯田市こども家庭応援センターの運営状況について（事務局：蓑和説明（資料No.1））  
意見質問事項

A 委員	<p>●●地区では昨日、民生児童員協議会の定例会が行われ、1件児童の問題が挙げられた。定例会で今まで子どものことについて話し合ったことはあまりなかったため●●にも児童に関する問題があるということを初めて認識した。新型コロナウイルス蔓延前は年に何回も地区の保育園を訪問し、子どもたちと交流していたが、新型コロナウイルスが蔓延してからは全然顔をだすことができなくなってしまった。問題のある児童については顔さえわからない状況。保育園の先生とも相談し、どのように支援していけばいいのか考えた。児童の父親と地域の人たちとの関りがほとんどないため、まず訪問をして顔を覚えてもらうところから始めることにした。その先の支援についてはまた市の担当の方に相談したいと考えている。地域のお父さん達と地域に住んでいる人達が顔見知りになって、気軽に話ができたり、お茶を飲めるような関係をまずは作っていければいいなと思っている。本日の運営状況の報告でも「子育てに関心を寄せあう地域のつながりの重要性」について話をさせていただき、本当によかったと思っている。</p> <p>●●地区では毎年藁草履を作って保育園の子どもたちに贈っている。藁草履のチクチクとする感覚が子どもの脳を刺激して頭がよくなると話をした。子どもたちは喜んで大事に使ってくれている。もっともっと地域の子どもたちと関わっていかなければいけないなと認識を新たにした。</p>
B 委員	<p>虐待や養護相談等の件数が急激に増加しており驚いている。これは新型コロナウイルス感染症だけが要因なのか。</p>
事務局	<p>やはり新型コロナウイルス感染症の蔓延による影響が大きいと認識している。児童虐待というものは貧困や夫婦関係、子どもの特性による育てにくさ、地域等とのつながりの希薄さや介護等によって子育て以外にも大変な事情を抱えていることなど様々な複合的な要因が絡み合って起こる。その中でも大きな要因として家庭の孤立がある。気軽に相談できる人や機関とつながっていることで問題が大きくなる前に相談が可能であれば問題への対処も早期にできる。しかし孤立している家庭の場合、相談ができずに問題が膨らんでいってしまう。コロナウイルスによる自粛ということがさらに孤立傾向を進める要因になってしまったという状況がある。だからこそ孤立している家庭を早期に見つけて支援につなげているという結果の表れでもある。</p> <p>また近年、児童福祉法や児童虐待防止法の改正により児童虐待の定義が変わり、児童相談所が警察と連携して対応できるようになったことで DV や夫婦げんかの相談でも子どもの前で行われていたりした場合は児童相談所に報告が行き、一緒に注意喚起をしていくような体制がとられるようになってきた。このことも一因として考えられる。</p>

(2) 新型コロナウイルス感染症対応について (事務局：小澤説明 (資料No.2))

意見質問事項

C 委員	実際に臨時給付金を受け取ったご家庭からの反応はどのようなものであったのか。
事務局	特にひとり親家庭からは給付金が支給されるということは大変ありがたいという声がある。広報等で案内をさせていただくと反応がすぐあり、申請方法等のお問い合わせをいただくことが多い。給付金等の施策は効果があったと認識している。
A 委員	給付金がもらえるからという理由で親が働かない家庭や食べ物をフードドライブ等で提供してもらい生活をつないでいる家庭がある。そういった家庭に対して就労等の指導はどのように行っているのか。
事務局	臨時給付金については1度限りの給付であるため、直接的な指導は行っていない。しかし話を聞く中で必要があればまいさぼや福祉課等と連携して必要な機関につなぐという支援を行っている。

7 協議事項

(1) 子育て応援プランの進捗状況について (事務局：後藤説明 (事前配布資料))

意見質問事項

C 委員	合計特殊出生率等令和6年度の目標の数値が示されている。現時点では令和2年度までの実績が出ているが将来的な展望はどうなっているのか。
事務局	合計特殊出生率は新型コロナウイルス蔓延の影響もあり、令和3年についても低下する見込みである。当市では引き続き、子育て応援プランの推進により将来的に児童数や合計特殊出生率等が向上するよう努めていく。
D 委員	5ページの「途切れない発達支援体制整備事業」の表の中の福祉型児童発達支援利用児童と計画相談利用児童について具体的に教えていただきたい。
事務局	福祉型児童発達支援とは就学前の何らかの障害のあるお子さんに対して療育を目的に支援をするという事業のことである。事業を利用してもらうためには介護保険サービスのようにどのような目標に向けて障害サービスを利用していくのかという計画相談というものを立てて、プランを作成し、そのプランに沿って障害サービスを利用いただくという流れになっている。計画相談利用児童は障害サービスを利用するために計画相談を立てている児童のことである。
D 委員	福祉型児童発達支援利用児童はどのような支援機関を利用しているのか。
事務局	飯伊圏域では子ども発達センターひまわりと民間事業所2か所を利用している。
D 委員	令和2年度子育て応援プラン実施状況一覧の5ページで食育の推進事業について書かれているが、現在アレルギーのあるお子さんが非常に多いと感じている。保育園ではアレルギー代替食を提供しているところと家庭からお弁当を持ってきているところとあると思うが、そういったお子さんたちも同じ給食費でいいのかということに疑問を感じている。お子さんごとで給食費を返金してもらうことが一番だと思うがその対応が難しければアレルギー代替食の提供を勧めていただきたいと

	思っている。
事務局	<p>令和元年10月より幼児教育保育の無償化がスタートしており、それまで保育料の中に含まれていた給食費が実費負担となった。それに伴い、国の方からアレルギー対応を行ったお子さんについて給食費を多く取らないようにという指針が出された。そのためアレルギー除去食を提供しているお子さんについても公立保育園であれば4,800円、私立保育所も公立保育園に準じる形で給食費は4,800円で設定をいただいている。またアレルギー除去食にかかる特別な費用についても負担をいただかないように国の指針に基づいて市からもお願いをさせていただいている。園での対応が難しく、お弁当もしくはおやつを持ってきてもらうようお願いをしている状況があるのかどうか等についてははっきりと把握していないため、改めて確認をさせていただきたいと思っている。基本的にはアレルギー除去食が提供されているとしても同額の4,800円の給食費となっている。</p>
E 委員	<p>私は保育園の園長をやっている。誤解がないように申し上げますと少なくとも私立の保育園ではアレルギーのあるお子さんに家庭からおかずを持ってきてもらったりしていることはまずない。徹底して対応している。例えば卵アレルギーのお子さんには卵を使っていないパンを提供している。パン屋さんも対応をしてくれる。どの保育園でも栄養士がとことん対応をしている。ただ小学校では保育園でやっているような対応はしていないため保護者の方には卒園の際に説明を行っている。保育園ではアレルギー除去食の提供を精一杯やっていることはご承知おきいただきたい。</p>

## 8 その他

## 9 次回開催予定

日時 令和3年9月末をめどに開催予定 \*後日通知予定

内容 保育所型認定こども園について

## 10 閉会